

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |  |         |             |
|---------|--|---------|-------------|
| 事業所番号   | 4091400038                                     |         |             |
| 法人名     | 有限会社 クロヤマ                                      |         |             |
| 事業所名    | グループホーム むつみ                                    |         |             |
| 所在地     | 〒811-1123 福岡県福岡市早良区内野5丁目24番42号 TEL092-803-0515 |         |             |
| 自己評価作成日 | 平成23年10月30日                                    | 評価結果確定日 | 平成23年12月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                                       |  |  |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会                  |  |  |
| 所在地   | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294 |  |  |
| 訪問調査日 | 平成 23年11月24日                          |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|  |
|--|
| <p>ニーズに基づき、柔軟性と応用力のあるサービスを提供する事に力を入れています。又、広い庭を利用して季節折々の草花や野菜を作ったりしています。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

|   |
|---|
| <p>グループホーム「むつみ」は、環境に恵まれた住宅街にあり、「利用者と職員が家族のような関係で、利用者の尊厳を尊重し、心身機能に応じて、その人らしい暮らしが出来る支援をしていく」という、理念を掲げている。チームワークの取れた職員達が、利用者の暮らしが、生き生きと、充実した一日になるように、家族の協力と理解を得て頑張っている姿は、見た者に感動を与えている。管理者と職員は、運営推進会議を地域交流の柱にして、災害時の応援、清掃活動、庭の手入れ等の相互協力や、保育園児との定期的な交流予定等、開設6年目を迎え、活動の輪が広がっている。利用者の健康管理は、協力医による毎週定期的な往診や、夜間救急時の対応等、適切な医療が受けられる体制である。今後、地域密着型グループホームとして、意欲的に地域貢献を目指す「むつみ」である。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|--|---|---|---|
| 58<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を<br>掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)   | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 65<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい<br>る<br>(参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 59<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が<br>ある<br>(参考項目:18,38)         | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 66<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                       | ○ 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 60<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4)   | ○ 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 61<br>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68<br>職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)  | ○ 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 62<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 69<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 63<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 70<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○ 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 64<br>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己                 | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------|----|--|--|---|-------------------|
|                    |    |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |    |  |  |   |                   |
| 1                  | 1  | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                           | 事務所内に提示をして朝礼の時に唱和をする様に心掛けている。月の一度のミーティングの際に理念の共有をはかっている。           | 利用者と職員は、家族のような関係であり、その関係の中で利用者の尊厳を尊重しその思いを大切に、利用者の残存能力を活かした支援をする事を理念に掲げ、毎朝唱和し、全職員が理解して、実践に向けて取り組んでいる。 |                   |
| 2                  | 2  | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                           | 散歩時のちょっとした挨拶を大切にしている。又、清掃活動にも積極的に参加して近所付き合いができるようにしている。            | 近隣住民によるホームの庭の水まきや運営推進会議への参加等、協力関係が結ばれている。また、地域の清掃活動や行事に参加したり、散歩時に挨拶を交わす等、日常的な交流が始まっている。               |                   |
| 3                  |    | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                         | 運営推進会議を通じて地域住民や利用者家族へ認知症を理解してもらえる様支援している。                          |   |                   |
| 4                  | 3  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | 地域住民、近隣の施設の管理者やいきいきセンター職員、利用者家族を招き、利用状況や行事報告、流行病対応や防火対策等の報告を行っている。 | 2ヶ月毎の運営推進会議は、参加者による意見、質問、情報等、活発な意見交換の場である。近隣の保育園との交流について、参加者の協力によって実現に向けて動き出す等、ホーム運営に反映出来ている。         |                   |
| 5                  | 4  | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | 介護保険認定更新時には可能な限り、利用者と一緒に役所に申し込みに行くことにしている。                         | 行政担当窓口に出向いたり、電話で相談し、アドバイスをもらっている。又、運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を把握し、理解してもらっている。                             |                   |
| 6                  | 5  | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間の施設は行っているが、日中は施設していない。   | 身体拘束廃止マニュアルを用意し、拘束が利用者に及ぼす弊害を理解し、職員全員で共有し、身体拘束ゼロを目指している。  |                   |
| 7                  |    | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている      | 勉強会は実施されていないが、身体的、精神的な虐待があれば、毎日の関わりの中で気付きがある。                      |   |                   |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|----|--|---|---|-------------------|
|    |    |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  | 6  | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                      | 成年後見制度を利用している入居者様もいるが、特に学ぶ機会を設けてはいないので、必要に応じて資料を閲覧できる様にしている。                | 現在、制度の該当者がいる。制度に関する資料やパンフレットを用意し、管理者だけでなく、職員全員が学習する機会を持ち理解を深め、利用者や家族に説明出来る用意がある。                    |                   |
| 9  |    | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている   | 契約の際は契約書の読み合わせを行い、不明な点は納得の行くまで説明を行い押印をもらっている。                               |   |                   |
| 10 | 7  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 意見や不満、苦情が出たときには職員で話し合い結果を伝えるなど対応していく。その事実をホーム便りを活用して他の家族に伝えていくようにしている。      | 苦情受付窓口を掲示し、苦情受付用紙を玄関に用意している。家族の運営推進会議への参加時や、日常的なコミュニケーションの中から、家族の意見、要望の聴き取りに努めている。                  |                   |
| 11 | 8  | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | 職員の意見や要望、提案は、月に一度の代表者による会議や都度々のタイミングで聞いている。                                 | 職員会議を、毎月定期的に開催し、活発に意見交換をしている。また、カンファレンスやモニタリングの中で、積極的に意見を出し合い、出された職員の意見を出来るだけ反映する努力をしている。           |                   |
| 12 |    | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている  | 職員自身が目標を立て、自己点検を行い、運営者からのアドバイスや励ましが必要。職員ひとりひとりの長所を見出し伸ばしていくことが大切と心得る。       |   |                   |
| 13 | 9  | ○人権尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 基本的に応募者全員と面接をしているが、介護という特殊な業務なので慎重に検討させてもらっている。職員は年齢層が高いので、人生経験を生かして仕事している。 | 職員の採用は、人物優先で進め、ホームに適合した人材を採用する事で、利用者や家族の安心と信頼に繋がる体制になっている。また、休憩室にはマッサージ機を設置し、職員がリフレッシュできる環境を整備している。 |                   |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる  | 学習資料を職員に回覧したりしている。  | 毎日、理念を唱和する事で、利用者の尊厳について意識付けが行われ、職員間で話し合い、人権教育啓発活動に繋げる工夫がある。   |                   |
| 15 |    | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている   | 必要な研修等は行ける様にしている。   |   |                   |

| 自己                           | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
|                              |    |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16                           |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 特に同業者との交流を通しサービスの質の向上に力を入れている。今後は協議会への入会の検討も視野に入れている。              |   |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |  |   |                   |
| 17                           |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 面会を重ね、体験入居を通して、本人の性格状態等を限られた時間で最大限把握するように努めている。                    |   |                   |
| 18                           |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 不安や心配をできるだけ少なくできるように傾聴し、入居後も本人とかかわるを多く持って頂く様に機会を設けている。             |   |                   |
| 19                           |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 本人、家族、担当者と話し合い、体験入居を通して何が必要なのかを見極め、サービス導入の前に担当者会議を開催して対応している。      |   |                   |
| 20                           |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 介護者の力量で差があるが入居者を巻き込みながら日々の暮らしを共に過ごす様に心掛けている。                       |   |                   |
| 21                           |    | ○本人と共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 家族だからできること、私たちだからできることを協働で取り組み、共に本人を支えている。                         |   |                   |
| 22                           | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | 長い年月をかけてきた大切な関係を断ち切らない様に手紙やハガキを出したり、贈り物が届いた場合には本人に電話をしてもらう支援をしている。 | 職員は、利用者の思いを聴き取りながら、利用者が昔住んでいた所に同行したり、また、手紙やハガキを出したり、電話で話す事等、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。 |                   |
| 23                           |    | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                           | 性格等の相性も考えながらテーブルの椅子位置や居室を自由に往来できる様に支援している。                         |   |                   |

| 自己                                 | 外部 | 項目   | 外部評価  |  |
|------------------------------------|----|--|---|--|
|                                    |    |  | 自己評価<br>実践状況  | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容  |
| 24                                 |    | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 特になし  |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |   |  |
| 25                                 | 12 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 主体は入居者である事を念頭に置きながら、ニーズに基づいて柔軟性と応用力のあるサービスを提供することを心掛けている。                   | 職員は、出来るだけ利用者に寄り添う事で利用者の思いを聴き取り、それを一つ一つ大切に検討し、支援に向けて、家族や関係者の協力を受けながらの取り組みを始めている。                  |
| 26                                 |    | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 家族やCM、本人から情報を収集して、サービス提供を行う様にしている。又、モニタリングでサービスの評価をしている。                    |  |
| 27                                 |    | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 本人ができる事、できる可能性がある事に着目して、本人の能力を生かしていく様に努めている。                                |  |
| 28                                 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | より良い生活をしてもらえるように問題解決に向けて担当者会議を開催して何か解決すべき問題はないか、時期を見計らって何が解決されていないかを点検している。 | 介護計画は、3ヶ月毎に作成し、利用者や家族の要望を優先している。また、利用者の状態急変時に備え、常に家族、医師と連携を図り、状態の変化があった場合はその都度、話し合いながら計画を見直している。 |
| 29                                 |    | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別記録に記入をして、情報の共有をしている。センター方式を取り入れたい。  |  |
| 30                                 |    | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 地域の社会資源につなげていける事業所としての役割を意識して活動できる様に務めたい。                                   |  |

| 自己 | 外部 | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |  |
|----|----|---|---|--|--|
|    |    |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                            |
| 31 |    | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | いきいき支援センター等と協働し、情報を共有するとともに、公民館や様々な関係者とネットワークを構築しながら利用できる様に努めたい。  |  |  |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 事業所の提供する医療機関で受診している。ひとり一人の状態を把握し、チームの一員となって支えてくれるドクターとの関係作りが不可欠。  | 協力医による往診が毎週行われ、24時間の医療連携体制を確立し、利用者の安心、安全な暮らしを支援している。         |  |
| 33 |    | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 日々の関わりの中で気になる事や異変があれば看護師に報告・相談をして看護師からDrと連携して指示をもらうシステムを構築している。   |  |  |
| 34 |    | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院との連携をとりながら担当者会議等に出席して、今後のサービスが適切に展開できる様に努めている。入院通院時には添書を作成している。 |  |  |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 命の倫理の問題や医療を受ける権利等を考えると終末期のあり方まで及んでいない。                            | 看取りの指針を作成し、利用者や家族と常に話し合い、思いを確認しながら、関係者間で、重度化に向けた方針の共有に努めている。 |  |
| 36 |    | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 全員ではないが3名の職員が救命講習を受けている。消防局より救マーク認定書もらっている。次年度には全員講習を目標とする。       |  |  |
| 37 | 16 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年2回、避難訓練を行っているも、その後の反省、想定協議を行っていないのが現状。近隣の住民の協力体制の築きはある。          | 年2回、消防署の指導の下、地域の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練を実施している。                  | 非常災害時に電気、水道、ガスが使用不可能な場合を想定し、非常食、飲料水の備蓄が望まれる。 |

| 自己                               | 外部 | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|----|--|---|--|-------------------|
|                                  |    |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |  |   |  |                   |
| 38                               | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 自尊心を傷つけない言葉使い・接遇などの精神面の配慮、排泄の誘導や介助、失禁等の対応等、羞恥心についても配慮している。シュレッダーの配置もある。     | 職員が、利用者を敬愛し、一人ひとりの人権を尊重し、言葉かけや誘導等、気をつけながらプライバシーを守る支援をしている。また、個人情報の取り扱いについては、人目に触れない場所に保管する等配慮している。                 |                   |
| 39                               |    | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 自立支援＝自己決定との思いに立ち自己決定ができる様にその場その場で取り組み支援している。                                |  |                   |
| 40                               |    | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のペースを大切に、その人らしい暮らしを送るためには職員の力量にかかるところが大きい。継続して働いてくれるということは馴染みの関係という面で不可欠。 |  |                   |
| 41                               |    | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 本人と相談しながらその日着るものを選択したり、髪留めや化粧水をつけたり、化粧したり、声かけによって行っている。                     |  |                   |
| 42                               | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 引き膳のできる人、食器拭き、盆拭き、何かひとつでもできる様に支援をしている。役割にもつなげている。                           | 食事は利用者の大きな楽しみであり、職員手作りの愛情のこもった美味しい食事を、利用者、職員が同じテーブルで食べる様子は、和気藹々として楽しい雰囲気である。又、食後の茶碗拭きは、利用者にとって残存能力を活かした楽しい取り組みである。 |                   |
| 43                               |    | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | カロリー計算はしていないが、メニューが偏らない様にチェックしている。摂取量は毎日記録に残している。体重測定は月に1回計測している。           |  |                   |
| 44                               |    | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後の口腔や舌ブラシでの舌苔の除去、週一度の歯科往診を必要な方は利用している。入歯の洗浄等は毎日夕食後施している。                  |  |                   |

| 自己 | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|----|---|--|--|-------------------|
|    |    |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄間隔を把握して、トイレ誘導を行い、なるべく失禁のない様支援している。可能な限りトイレで排泄ができる様に心掛けている。               | 職員の見守りのもと、利用者のほとんどが日中布パンツで過ごしている。職員は、利用者の排泄パターンを把握して、細やかな声かけや誘導等で、排泄の自立に向けた支援をしている。                  |                   |
| 46 |    | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 自然排便ができる様に食事の献立を工夫したり、乳製品、牛乳等で対応している。長期の便秘には主治医の指示をもらっている。                 |  |                   |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 午後の時間、3～4名を入浴としている。個浴でゆっくりと入浴を楽しめるように心掛けている。入浴を嫌がる人の気持ちを理解した上で上手に声かけをしている。 | 入浴日は決めているが、利用者の希望や状態に応じて、その都度柔軟に対応している。入浴が嫌いな利用者に対しては、無理強いせず、タイミングをずらしたり、職員が交代して声かけする等の支援をしている。      |                   |
| 48 |    | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 温度や湿度を適温にして、冬場は加湿器等を利用しながら、安心して眠れる様にしている。                                  |  |                   |
| 49 |    | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬の説明書をすぐに見れるところに置いている。服薬を介助する場合は日付け、名前を声に出して、誤薬防止に努めている。                   |  |                   |
| 50 |    | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | ADLを考え、できることを見つけ、役割を持って暮らせる様に支援している。                                       |  |                   |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出は普通の暮らしの中でごく当たり前のことなのだが、様々な要因で外出支援があまりできていないのが現状                         | 利用者の安全面を配慮しながら、外出の支援をしている。ホームの玄関を一步出たら自然が広がり、季節を五感で感じられる等、恵まれた環境の中での散歩や広いテラスでの外気浴は、利用者の大きな楽しみとなっている。 |                   |



| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|----|--|--|---|-------------------|
|    |    |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 |    | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | お金を管理できる人、持つことはしていないが支払い等できる人、持つことも支払うこともできない人、個々の力は様々なので力に合わせて支援している。 |   |                   |
| 53 |    | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 暑中見舞いや年賀状を手作りで作成したりして楽しめるようにしている。希望があれば、電話の希望も制限はしていない。                |   |                   |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の野菜づくりをして収穫できる様になるまで皆様と水遣りをしたりしている。収穫の時はできるだけ皆様と収穫する様にしている。          | 色々な野菜や花が作られている畑と、ゆったりとした室内には、回廊式の廊下とウッドデッキに続く明るいいりびんぐがあり、居ながらにして四季を感じることが出来る。また、安全面に配慮し、バリアフリーを完備し、居心地の良い共用空間である。 |                   |
| 55 |    | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 限られた空間の中で、すべての人の居場所づくりとなるとできているのか考えてしまいますが、なるべく気の合った同士で過ごせる様に工夫している。   |   |                   |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 家族と相談しながら、できるだけ使い慣れた家具の配置に心掛けている。衣替えも家族でできる事はしてもらっている。                 | 居室には、家族と相談しながら利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい、出来るだけ自宅と違和感のない雰囲気、安心して暮らし続けることが出来るよう配慮している。                                      |                   |
| 57 |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 日めくりカレンダーをめくったり、お茶を自由に飲める様にポットや急須、茶葉をテーブルにおいている。                       |   |                   |